

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立白石高等学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 授業及び進路指導、心の教育等に対する生徒の満足度はおおむね良好であった。 キャンパス間会議等のオンライン化や業務の見直し等により、業務改善と効率的な校務運営に繋がった。 学校の魅力化の研究及び実践を、職員全体で行っていく必要がある。
------------------	--

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 普通科と商業科を併置する特徴を生かし、校舎制の学校として独自の魅力を高める。 地域との協働を通して、高い志と主体的に未来を切り拓く力を持ち、地域や社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。
----------------------------	--

3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基本的な生活習慣を身に付け、周りと協力・協働できる生徒を募集します。 (2) 部活動や生徒会活動、ボランティア活動に積極的に取り組み、地域や社会に貢献しようとする生徒を募集します。 (3) 将来の「夢」の実現に向けて、チャレンジする精神を持ち、主体的に学習に取り組む生徒を募集します。(普C) (4) 社会で活躍できる知識・技術の習得や資格取得に意欲的に取り組む生徒を募集します。(商C) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学校行事や部活動、生徒会活動、ボランティア活動の充実を図ります。 (2) 白石町・大町町・江北町等と連携した探究活動やボランティア活動を行います。 (3) AIを用いた個別最適な学習や習熟度別授業・少人数指導により、一人ひとりの学力を伸ばし、進路実現を支援します。(普C) (4) 個の学びに寄り添うきめ細やかな指導により、ビジネスに関する学びの深化と、ビジネススキルや各種資格の習得を支援します。(商C) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 清らかで優しく、明るく思いやり豊かな人間性を育成します。 (2) 主体的に行動する態度と課題解決能力を育成します。 (3) 夢を形にできるように、一人ひとりに確かな学力と生涯にわたり主体的に学ぶ態度を育成します。(普C) (4) 夢を形にできるように、商業の専門的な知識と技術の基礎・基本を習得し、職業人としての能力と態度を育成します。(商C)

4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に行動する態度と課題解決能力を育成 学習評価を活用した授業改善の推進 キャンパス制機能を活用した魅力的な学校行事の推進 一人ひとりの学力を伸ばし進路実現の支援(普通科) ビジネスに関する学びの深化とビジネススキルや各種資格の習得の支援(商業科)
------------	---

5 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	取組内容		成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○一人ひとりの学力を伸ばし、進路実現の支援を行う(普) ○ビジネスに関する学びの深化とビジネススキルや各種検定の習得を支援する(商)	○「学習意欲があると思う。」と回答した生徒80%以上(普) ○「商業に関する学びを深めたり、ビジネススキルの習得を行っている。」と回答した生徒80%以上(商)	・AIを用いた個別最適な学習や習熟度別授業、少人数指導を行う。(普) ・個の学びに寄り添うきめ細やかな指導を行う。(商)	A	・普通科で「私は、学習意欲があると思う。」と答えた生徒は79.3%、商業科で「私は、商業に関する学びを深めたり、ビジネススキルの習得を行っている。」と答えた生徒は89.7%であった。学習における各学科の取り組みが学習意欲や学力向上に繋がっている。	A	・普通科で「私は、学習意欲があると思う。」と答えた生徒は79.6%、商業科で「私は、商業に関する学びを深めたり、ビジネススキルの習得を行っている。」と答えた生徒は91.1%であった。学習における各学科の取り組みが学習意欲や学力向上に繋がっている。 ・「私は、主体的に対話的な深い学びを意識した授業を行っている」と答えた教職員は80.4%、「学校は、子供たちに、満足する授業を提供している」と答えた保護者は74.8%であった。各教科のにおける取り組みや実践の効果が現れている。	A	・中間評価から最終評価へと、「意欲があると思う」と回答した生徒の%が向上しており、両キャンパスともに教職員全体の取り組みが継続して充実していることが顕著に表れている。これは、教職員の「主体的に対話的な学びを意識した授業を行っている」という回答を裏付けるに足る数値である。	進路支援部 教育支援部	
	○生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路指導により、生徒自身が自らのキャリア形成についての理解を深め、進路実現を達成させる。	○キャリア教育アンケートにおいて、「進路について考えることができた」、「ある程度できた」と回答した生徒の割合97.0%以上	・各種進路行事を通して、自らの進路に関して考える機会を提供し、生徒自身のキャリア形成に対する理解を深める。 ・学期ごとの記録を通して、自分の取り組みを振り返る機会を準備し、さらなる活動の進展へつなげる。 ・「総合的な探究の時間」への取り組みを通して、地域との関わりや職業について体験をさせることで主体的に活動し学ぶ態度を育成する。	A	・全学年対象に進路ガイダンスを実施した。1年生対象に地域連携講座と進路講演会、2年生は大学訪問と進路講演会、3年生は進路講演会を実施し、生徒の進路意識の向上の一助となる取り組みを行うことができた。	A	・2月実施のキャリア教育アンケート(生徒対象)によると、1年間の学習や行事を通して「働くことの意義」について考えることが「できた」「ある程度できた」と回答した生徒が96.1%になり、概ねキャリア教育の目的を達成したと考えている。また、12月実施の学校評価アンケート(保護者対象)で「学校は、学習や行事等を通して、働くことの意義を考える機会を設けている」では、保護者の85.8%が「よく当てはまる」「やや当てはまる」と回答されており、こちらも肯定的回答が多かった。(普)	A	・生徒対象の「キャリア教育アンケート」の結果、及び保護者対象の「学校評価アンケート」結果ともに、目標としていた「生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路指導」を行い、生徒に「働くことの意義」を考えさせることができていたことが明確に表れている。	進路支援部 各学年	
	○主体的に考え行動する力を育成するため、また、学力向上のための授業改善に取り組む	○授業について、「満足している」と回答した生徒の割合90%以上	・ICT機器の効果的な活用方法等、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて、各教科で研修を行う。	A	・アンケートで授業について「満足している」と回答した生徒の割合は、92.8%、授業内容がほしい理解でき、課題も提出していると回答した生徒の割合は90.0%、学校で学んだ知識をより深める努力や高める努力を自主的にしている生徒の割合は77.4%であった。 ・ICT機器の効果的な活用をしていると回答した職員の割合は73.1%、主体的に対話的な深い学びを意識した授業を行っていると回答した職員は75.0%、教科会等で授業改善について協議したと回答した職員は61.5%であった。 ・授業および家庭学習での学習用PCやClassiおよびスタディサプリの活用も定着しつつある。	A	・アンケートで授業について「満足している」と回答した生徒の割合は、93.9%、授業内容がほしい理解でき、課題も提出していると回答した生徒の割合は85.7%、学校で学んだ知識をより深める努力や高める努力を自主的にしている生徒の割合は78.5%であった。 ・ICT機器の効果的な活用をしていると回答した職員の割合は74.5%、主体的に対話的な深い学びを意識した授業を行っていると回答した職員は80.4%、教科会等で授業改善について協議したと回答した職員は68.6%であった。	A	・主体的に考え行動する力を育成するため、また学力向上のための授業改善に取り組む」という目標を掲げ、「授業に満足している」と回答する生徒が90%以上を成果指数とするという厳しいハードルを課し、見事に結果を出している。生徒の「授業内容の理解、課題の提出、「より深める努力」についての回答は78.5%~90%と差はあるが、ほぼ8割以上が取り組んでいる学校の雰囲気(校風)を今後も継続していきたい。	教育支援部 各教科	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権感覚を身に付けるための啓発活動や研修等へ参加し、人権感覚を身に付けたと回答した職員・生徒を90%以上。	・クラス担任や教科担当、部活動顧問等から幅広く生徒情報の収集に取り組み、情報共有を図る。 ・人権・同和教育講演会及びホームルーム活動をそれぞれ1回以上実施する。 ・授業や集会等で情報モラルに関する指導を1回以上実施する。	A	・人権・同和教育に関する講演会やホームルーム活動に参加し人権感覚の向上に努めたと答えた生徒は82.8%、職員は78.8%であった。 ・人権・同和教育に関する講演会などの機会だけでなく、日常の生活において人権感覚を常に持ち、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」で豊かな心を育てていきたい。	A	・人権・同和教育に関する講演会やホームルーム活動に参加し人権感覚の向上に努めたと答えた生徒は87.9%、職員は92.2%であった。一方で、保護者の「学校は人権・同和教育に取り組み、人権感覚を身に付ける機会を設けている。」については、68.3%、「学校は自他の生命を尊重する心・他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など豊かな心を身に付ける教育活動を行っている。」は70.7%に留まった。	A	・生徒・教職員のアンケート回答を平均すれば成果指数をほぼ満たしている。一方で、保護者アンケートの回答で、7割前後であることから、保護者が「学校と保護者がともに手を取り合って「自他を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など」豊かな心を身に付ける実践をさらに強化させる努力をお願いしたい。	教育支援部(人権・同和教育担当)	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校はいじめの予防、発見、対応をしていると思う」と回答した生徒78%	・いじめアンケートを年2回実施し、実態調査を行う。 ・QUTテストを年2回実施し、実態把握を行う。 ・いじめ対策及びQUTテスト分析に関する職員研修を年に1回以上実施する。 ・週に1回、学年・生徒指導・教育相談担当等が情報共有を行い、連携を図る。	B	・生徒からの相談等への対応は素早く適切にはなっている職員は98.1%であり、学校はいじめ対策について組織的に対応ができていると感じている職員は92.3%であった。いじめに対する取り組みはおおむね学校がチームとして迅速かつ適切に対応ができていると考えられる。 ・学校はいじめ対策を行っていると感じている生徒は76.6%であり、学校はいじめ対策に対して相談しやすい体制が整っていると思うと感じている生徒が76.6%であった。 ・今後もいじめの未然防止に努め、いじめに対する対策も学校が組織的に取り組んでいかなければいけないと考えている。	B	・成果指標に掲げていた目標数値に届かなかったことは課題材料である。今後学校がいじめ対策をおこなう上で、目から生徒に関する情報を共有していくことが重要だと考え、そこで出た問題に対して関係職員で対策を考え、対応できる組織作りが必要である。 ・保護者アンケート結果から「学校は、相談しやすい体制が整っている」66.3%で昨年より低下していることから、学校が生徒や保護者にとって相談しやすい存在となるよう、生徒との信頼関係の構築に一層努め、安心できる居場所や相談しやすい環境を整えることが必要である。	B	・日頃からの情報収集のために、その前提となる日頃からの信頼づくりが何よりも重要ということが明確になったと考える。問題となりそうな兆候に遭遇したときの教職員の寄り添いと、情報共有による組織としての支援の機動性を高める研修、保護者への広報・研修会にもさらなる工夫をしていただいでよいのではない、もちろん、生徒同士の横からの支え合いも積極的に働きかける必要がある。 ・原因と対策の検討をお願いしたい。	生徒支援部 (生徒指導・教育相談)	

	◎郷土愛を醸成するための教育活動	◎佐賀県や地域について学ぶ活動や講演会を実施し、佐賀県や地域に誇りや愛着を持っている生徒を90%以上にする。	・「さがを誇りに思う教育講演会」や探究活動を通して地域の方々や企業等の代表者から話を聞き、佐賀県や地域の魅力を深める。	A	・アンケートで「佐賀県や地域について誇りや愛着をもつような教育を行っていると思う。」について、職員86.5%、生徒に対しては、「佐賀県や地域について誇りや愛着を持っている。」のアンケートで、81.5%となった。	B	・アンケートで「佐賀県や地域について誇りや愛着をもつような教育を行っていると思う。」について、職員は94.1%、生徒は、「佐賀県や地域について誇りや愛着を持っている。」について、82.2%となった。保護者は、「学校は佐賀県や地域について誇りや愛着を持つような教育を行っている」について78.5%となった。	A	・「佐賀や地域について愛着を持っている生徒を90%以上にする」という成果指数があり、アンケート結果が、生徒82.2%、保護者78.5%であることからBという考えもあるが、職員の取り組みが94.1%であり、かつ「総合的な探究の時間」成果発表会をみれば当然Aとしてよいと考える。 ・保護者の割合が低いのは、学校の取組内容が保護者に浸透していないからではないか。せっかく良い教育を行っているにもかかわらずと保護者に教えてほしい。	教育支援部(佐賀を誇りに思う教育担当)
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」生徒を85%以上にする ●「健康でいるために食事は大切である」と考える生徒を95%以上にする	・年に2回(5月と11月)に食生活アンケートによる意識調査を行う。 ・月に1回(毎月1日)、食育だよりと保健だよりを発行し、望ましい食習慣と健康との関わり、栄養や食品、旬の食材や行事食について等の情報発信を行う。	B	・5月実施の生徒の食生活アンケートでは、「健康に良い食事をしている」生徒は90.9%であった。また、「健康でいるために食事は大切である」と考える生徒は、100%であった。	B	・11月実施の生徒の食生活アンケートでは、「健康に良い食事をしている生徒」は99.1%であった。また、「健康でいるために食事は大切である」と考える生徒は、100%であった。	A	・アンケート結果から、食事が大切だという生徒が100%、「健康に良い食事をしている」生徒が99.1%であるため、成果指数を完全に達成している。食育だより・保健だよりの継続も評価してよいと考える。	生徒支援部(保健指導)
	●安全に関する資質・能力の育成	○防災について、高い意識を持っていると回答した生徒90%以上 ○交通ルールの順守や交通マナーの向上への自己評価90%以上。 ●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・風水害時の保護者の迎えの手順を文書で作成し周知する。 ・防災避難訓練を消防署立ち合いのもと実施する。 ・交通講話の実施や交通指導を行い、交通マナーの向上を図る。	A	・風水害時の保護者の迎えの手順を文書で作成し、PTA総会やホームページでの周知に取り組んだ。 ・防災について指導を行っているという回答した職員は、96.2%であった。11月に実施予定の防災(地震・火災)避難訓練でより防災への意識を高揚したい。 ・交通ルールの順守や交通マナーの向上に努めていると回答した生徒が95.7%、また、その指導を行っている職員は98.1%であった。防災や交通事故防止の意識を持ち、命の大切さに繋げていきたい。	B	・生徒は、「私は、防災について高い意識を持っていると思う」で、79.2%に留まった。また、「私は交通ルールの順守や交通マナーの向上に努めている」という回答は95%ある。生徒の交通事故については0件であった。	A	・職員の防災についての指導及び交通ルールの遵守やマナー向上に努めているという回答は95%を超えている。また、交通ルールについての生徒の「努めている」という回答は95%ある。生徒の防災についてのアンケートは、あえて「高い意識を持っている」としたため8割前後になった可能性が高いと判断した。	生徒支援部(生徒指導)・教育支援部(防災担当)
	●健康・体づくり	○心身ともに健康で、文武両道の充実した生活環境をつくる	○本校の「部活動の活動方針」に基づき活動ができたという回答した教員85%以上 ○心身の健康維持・促進に積極的に取り組んでいると回答した生徒85%以上	B	・本校の生徒の部活動への取り組み方は積極的であると回答した職員は80.8%であり、体育の授業や体育的行事等に対し、生徒は積極的に取り組んでいると回答した職員は96.2%であった。 ・体育の授業や体育的行事等に対し、積極的に取り組んでいる生徒は94.3%であり、部活動や社会体育等を通じ、有意義な時間を送っている生徒は75.7%であった。 ・本校生徒の体育の授業ならびに体育的行事に対する取り組みは積極性が感じられる。また、部活動においても活気が感じられる。今後も体育的行事や部活動を通じて生徒の自主性を育み、心身の健康につなげていきたい。	A	・体育授業や体育的行事に対して、生徒は非常に積極的に取り組んでいると、職員・生徒ともに感じている。実際に積極的な動きが見られた。 ・部活動については、各顧問が綿密な計画のもとに生徒に対し短時間ながらも効果的な活動ができるように引き続き指導していく。	A	・体育の授業や体育的行事に対して積極的に取り組んでいると回答した職員は96.2%、同じく積極的に取り組んでいると回答した生徒は94.3%である。部活動について積極的に生徒が活動していると回答した職員は80.8%あり、全体として成果指数を満たしていると思われる。生徒への最後の質問が、「部活動で有意義な時間を過ごしている」という質問のため、生徒は75.7%が回答したと考える。	生徒支援部(生徒会)
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合15%以下を目指す。	・事務ポータルシステムの活用と会議の削減を行う。 ・出退勤システムの活用で、個人が時間外在校時間を管理する。 ・週に1日定時退勤日を設定し、効率的な業務遂行を推進する。	B	・時間外勤務の削減や自身の健康保持のために、出退勤システムを活用して時間外在校時間の把握を行うよう呼びかけた。 ・定時退勤日を月曜日を設定、夏季休業中に閉庁日を5日間設定するとともに、年休や振休の取得促進を行った。	B	・出退勤システムを活用して個人が時間外在校等時間の管理を行うことにより長時間労働の縮減に対する意識が高まり、時間外勤務時間の削減につながった。 ・週に1日定時退勤日の設定と定期的な年休取得の呼びかけ等により効率的な業務遂行につながった。	A	・引き続き教職員の負担減に繋がるようお願いしたい。	管理職
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○職場の相談体制を整え、働きやすい職場環境を構築する	○働きやすい職場環境であると回答した教員の割合80%以上を目指す。	B	・職員会議や朝礼の時間を活用して、教職員の勤務規律の保持に関する指導を行った。 ・今までのところ、ハラスメントの相談件数は0で、メンタル不調者も出ていない。	B	・職員会議や朝礼の時間を活用して、随時、教職員の勤務規律の保持に関する指導を行うことにより職員の意識の向上につながった。 ・職員同士が話しやすく連携しやすい雰囲気づくりに努めることにより働きやすい職場環境の構築につながった。 ・ハラスメント研修や教育相談に関する研修等により、職員の意識が向上した。	A	・ハラスメント相談件数0、メンタル不調者も出ていないということから判断した。	管理職
	●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	B	・特別支援教育に関する研修会(事例研究)の実施 ・ケース会議の開催、教職員間での情報共有 ・特別支援学校職員による巡回相談 ・「Hyper-QU」心理検査の実施と結果についての研修会	B	・特別支援教育に関する専門性が向上した教員72.5% ・10月に校内職員研修会「発達障害の理解と困っている生徒への支援について」(講義演習)実施。 ・配慮を要する生徒については、関係職員で情報共有を行い、場合によってはケース会議を開いた。	A	・成果指数は80%以上とあるが、70%を超える教員が専門性が向上したと回答したのであれば、ほぼ達したと判断できる。	生徒支援部(特別支援)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体系的な活動の充実と県内外への情報発信 ○地域等と協働した学校運営(学校の魅力化の研究と実践) ○地域連携の拡大 ○小中高連携の企画 ○学校の魅力の情報発信と県外募集	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合80%以上 ★県外からの入学者数2人以上 ○地域連携事業に関わったと思う生徒と職員の増加 ○学校が積極的に地域と連携していると思う保護者の増加	・学校魅力化委員会を年4回開催し、学校運営の改善に繋げる。 ・SAGAコラボレーションスクールの取り組みを充実させる。 ・総探等の地域連携事業の質を向上させる。 ・学校の情報発信を促進させる。 ・小中高連携事業を企画する。	A	・「自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合」は、生徒が86.1%、職員が80.8%であった。今後も学校の魅力づくりに努めたい。 ・「学校は地域連携事業に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は88.3%で、総合的な探究の時間等における地域と連携した活動の成果が出ている。	A	・「自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合」は、昨年度よりも増加し、生徒が85.7%、職員が80.4%であった。 ・県外からの入学者数3名であり、目標を達成した。 ・「学校は地域と連携した取組を行い、主体的に行動する態度と課題解決能力を育成する教育を行っていると思うか」の質問に対し、肯定的回答の保護者は78.9%。地域と連携した活動について多くの保護者から理解が得られている。	A	・自分の学校を中学校に進めることができる生徒・教職員は最終的に85.7%、80.4%あり、成果数値を達成している。保護者についても、「学校は地域と連携した取り組みを行い、主体的に行動する態度と課題解決能力を育成する教育を行っている」に対する肯定的回答が78.9%と、他の質問よりも工程が多い。	SAGAコラボレーション・スクール担当
○校舎制による円滑な学校運営の推進	○キャンパス間の連携・協力体制をより充実させる ○業務の効率化と質の向上を図る。	○「本校は、キャンパス間の連携・協力体制がある」と思う職員の割合80% ○「昨年度より業務の効率化が図られたものがある」と思う職員の割合60%以上。	・合同の学年会や分掌会議を行い、キャンパス間の連携を図る。 ・職員の会議や生徒の特別活動等では、対面やオンライン開催等の開催方法を協議し、より効果的な開催方法を探る。	B	・オンラインを活用した合同会議等により、業務の効率化が図られている。 ・「本校はキャンパス間の連携・協力体制がある」と回答した職員の割合は73.1%、「昨年度より業務の効率化が図られたものがある」と回答した職員の割合は60.8%。会議等は対面とオンラインを併用し、お互いの様子を把握しながら効率よく行うことができた。	A	・「本校は、キャンパス間の連携・協力体制がある」と思う職員の割合は78.4%。各部署での連携・協力体制を強化する必要がある。 ・「昨年度より業務の効率化が図られたものがある」と思う職員の割合60.8%。会議等は対面とオンラインを併用し、お互いの様子を把握しながら効率よく行うことができた。	A	・キャンパス間の連携・協力体制があると思う職員の割合は78.4%とわずかに成果指標を下回るが、昨年度より業務の効率化が図られたという回答が60.8%という割合は、よく達成できたことと判断する。 ・現状の課題を打開するためにはキャンパスを統一することを視野におくべき。	管理職、主幹

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

6 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に目標はおおむね達成できたといえる。今年度の取組内容や結果については引き続き分析・検討し、教育活動の一層の充実を図る。 ・学校の取組を、校内外へ広く発信する仕掛けが必要である。 ・地域をはじめとした外部資源とのつながりの継続・拡大を図り、主体的に学ぶ力と課題解決能力の向上を目指す。
----------------	---